

[活動報告]

日本機械学会 2022 年度年次大会 市民フォーラム[C191] モデルロケット教室

開催概要報告

工学院大学
齊藤亜由子

開催日：2022年 9月11日（日）8:45～12:50
会場：富山大学五福キャンパス 総合教育研究棟11講義室（打上げ：グラウンド2）
参加人数：小学生33名，保護者33名，スタッフ13名
主催：一般社団法人日本機械学会 宇宙工学部門・技術と社会部門
共催：信州大学航空宇宙システム研究拠点，SUWA小型ロケットプロジェクト
後援：富山市教育委員会

宇宙工学部門・技術と社会部門が共同で主催した市民フォーラム[C191] モデルロケット教室は3年ぶりに年次大会会場での開催となり，大盛況のうちに無事終わることができた。

本教室は2022年度日本機械学会分野連携企画の採択を受けており，両部門の委員から成るWGを立ち上げ，今年2月より打ち合わせを開始した。打ち合わせ開始当初は教室の内容・構成，広報手段などを中心に議論を進めていたが，社会情勢によって年次大会の開催方式が変更となる可能性を考慮し，オンラインでのモデルロケット教室も視野に入れて準備を進めた。広報手段は富山大学五福キャンパス近隣の小学校へ直接チラシを送付するのみとし，小学生が夏休みに入る直前の7月中旬，各小学校へチラシ配布の依頼を行った。チラシ配布開始の初日から申し込みフォームにはたくさんのお申込みをいただき，一両日中には参加定員の倍近い申込数に達したことから，定員を増やして対応することとした。参加申し込み締切り後は，当日の進行，参加者の班分け，各スタッフの担当など詳細な打ち合わせを行い，無事に富山大学において開催の日を迎えた。

当日は，WGから中山昇先生（宇宙工学部門・信州大），早稲田一嘉先生（技術と社会部門・神戸高専），田辺基子先生（同・神奈川工大），齊藤（同・工学院大），信州大学から榊和彦先生（航空宇宙システム研究拠点宇宙システム部門），中山ゆい氏（SUWA小型ロケットプロジェクト広報），学生7名（信州大学，工学院大学，富山大学）がスタッフとして参加し，中山昇先生が講師を務められた。中山先生からモデルロケットの構造，エンジンの仕組みについて説明があった後，参加者はモデルロケットを製作した。製作に苦戦する参加者もいたが，スタッフの補助もあり，皆きれいなモデルロケットを完成させることができた。その後，射場へ移動し，モデルロケットの打上げを実施した。当日は風の少ない穏やかな天気にも恵まれ，

参加者は各自のモデルロケットを発射台へ設置し、「発射準備完了，低空飛行物体なし，点火5秒前，4，3，2，1，点火！」の掛け声に合わせて発射ボタンを押した．すべてのモデルロケットが無事に打上がり，自分のロケットを回収しに行く参加者らの笑顔が印象的であった．

最後に，大変有意義なロケット教室となりましたこと，あらためて講師の中山先生をはじめ当日ご指導にあたってくださった先生方，学生の皆様，準備にご尽力いただいたWG委員の皆様に深く感謝いたします．そして，急遽定員枠を広げたことでモデルロケットキットを当初の予定よりも多くご提供いただいた信州大学 航空宇宙 システム研究拠点，SUWA小型ロケットプロジェクトの皆様，現地での教室・駐車場等細かな調整をしてくださった年次大会実行委員 富山大学 寺林先生，富山県立大学 神谷先生にこの場を借りて御礼申し上げます．



日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.46

(C)著作権:2022 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門